

2026年 3月 31日

研究休暇報告書

南山大学長 殿

所 属 人文学部キリスト教学科

職氏名 教授 スザ ドミンゴス

受入研究機関等：日本国内、主に南山大学研究室および自宅

期間：2025年4月1日～2026年3月31日

目的：

1. キェルケゴールの思想的源泉に関する研究
2. これまでのキェルケゴール思想の研究の成果を取りまとめ、単行本として出版する

これまで何年にもわたりキェルケゴールの思想についての研究に取り組んできた。

2014年までに主に比較思想視点から、親鸞とキェルケゴールの思想の比較研究を行

い、その研究成果を単行本として出版した。10年程前に、定期的に連絡を取り合っているポルトガル人やブラジル人の学者との会話からキェルケゴールを神学者として取り扱うポルトガル語での研究書が少ないのではないかという話題になり、その話に示唆を得て、それ以来、キェルケゴールの神学的思想の解明を試み、定期的にポルトガル語での論文を書き始め、海外雑誌に投稿してきた。研究休暇期間中にキェルケゴール思想の歴史的・哲学かつ神学背景を探り、その研究結果をこれまで取り組んできたキェルケゴールの思想の研究成果に盛り込み、2025年11月に南山大学の叢書として *Søren Kierkegaard: Poeta e Teólogo Singular* [セーレン・キェルケゴール — 詩人にして孤高の神学者] という題の著書を公刊した。

その際に、著書の出版記念イベントに参加し、著書の概要の紹介したとともに、リスボンにあるオープンユニバーシティの総合研究センターで開催された研究会で「A Crítica de Kierkegaard às Tecnologias de Informação. Despersonalização do Sujeito e Controle Social [キェルケゴールの情報技術批判 — 主体の非人格化と社会統制]」という題で講演した。また同様の総合研究センターが監修する『世界宗教霊性辞典』に掲載される日本仏教についての見出し語の寄稿依頼があり、辞典の編集者と打ち合わせ、見出し語選定のための検討会に参加した。3月末までにその見出し語についての原稿記事を書き、提出した。

ポルトガルへ研究出張期間中に様々な宗教研究者と意見交換する機会を得、キェルケゴ

ール思想などについて洞察を深めることができた。非常に有益な研究休暇であった。一年間の研究休暇を頂き、心より感謝申し上げます。この一年間の成果を今後の研究・教育に活かしてゆく所存です。